

一貫生産体制完成へ

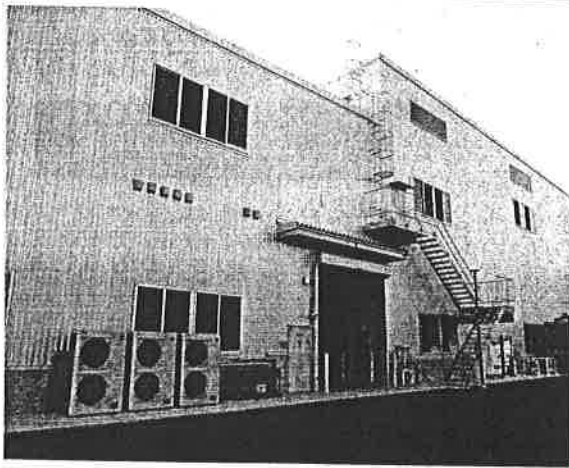
つくば、来年3月末めど

日本アトマイズ加工

日本精鉱が全額出資する金属粉子会社の日本アトマイズ加工(本社〓千葉県野田市、佐藤正勝社長)は、2013年3月末までにつくば工場(茨城県)の一貫生産体制を完成させる計画。主に電子部品向けの微粉専用工場として今年4月に操業を開始した。現段階では主力製品の銅系微粉について需要家の材料認定待ちとなっているが、年明け後の早い段階には本格稼働に移行できる見込みだ。

銅粉、年明け本稼働予定

同社は水アトマイズ法による金属粉の大手メーカー。本社工場の最大溶解能力は、電子部品の導電材向け銅粉や貴金属粉、磁性材向けの鉄系合金粉といった各種微粉が月200ト。軸受けなど粉末冶金向けの銅合金粉なども、月200トの最大溶解能力がある。新しくつくば工場が完成したことで、既存設備のある本社工場と合わせた電子部品用の微粉の最大溶解能力は、月320トとなり従来比6割アップした。新工場は4月に操業を開始し、8月には毎日稼働するようになった。現在は貴金属粉の



銅粉・貴金属粉に加えて試作ラインも設置

生産・出荷を行っている。銅粉については需要家の材料認定を得た。上で、新工場で本格生産を行い出荷したいと考えている。

銅粉や貴金属粉は主に積層セラミックコンデンサー(MLCC)や、インダクターをはじめとする各種電子部品に使われている。これらの電子部品はスマートフォンやタブレットPCなどの用途で世界的に需要が拡大。それに伴って原材料の金属粉の需要も増加傾向にある。つくば工場の戦力化により、生産ペースに余裕のない本社工場に替わって需要家の増量要請に対応できる。つくば工場を微粉専用工場にしたことで、品質要求が特に厳しい電子部品業界の需要家ニーズにも応えることができる。生産ラインも銅粉、貴金属粉に加えて試作ラインを設置。現行よりさらに微細化したI導やサブミクロンという次世代の微粉開発を強化する体制も整えている。